

クエスチョン・リレー

Class _____ No. _____ Name _____

技能・形態・時間	話す(やり取り)・聞く クラス全体(列対抗) 5分
この帯のねらい	質問が列を「リレー」して走る。先頭の生徒がお題カードの質問を隣に聞き、聞かれた人は答えてから同じ質問を次へ——列の全員が必ず1回質問し、1回答える。挙手ゼロで全員が声を出す帯。

やり方

毎回この流れ(先生の英語の合図で始まる)

1

Question cards, ready? First person, stand up!
列の先頭が質問カードを1枚引く(例: What time do you get up?)

2

Ask the next person. Pass the question!
先頭が隣に質問→答えたら、その人が次の人に同じ質問。どんどん後ろへ

3

Last person, run and answer to the teacher!
列の最後の人は答えを先生に言いに来る。早く正しく着いた列の勝ち

4

New card, new round!
カードを替えて2〜3本勝負。先頭は毎回ローテーション

ルール

・質問も答えも、聞こえる声で(小さい声はリレーが止まる)

・答えは文で(Yes だけでなく Yes, I do. / I get up at six.)

・つまった仲間には、列のみんなが小声でヒントOK(見捨てない)

きろく やるたびに記録しよう(のびていく自分が見える)

回	日付	今日の列の順位・タイム	ひとこと(できたこと・次の目標)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

☆レベルアップ！

慣れてきたら「答えてから、自分で質問を1つ変えて次へ」(Do you like soccer? → Do you like tennis?)にすると、質問を作る力の帯に進化。学年後半は疑問詞カード(What / When / Where / How)だけ渡して質問自体を作らせる。

先生へ(この帯活動の運用)

質問カードは既習の疑問文から10枚ほど(単元が進むたびに追加すると自動的にスパイラル復習になる)。リレー形式にする理由は2つ——①全員に発話の順番が構造的に回る(挙手制にしない) ②「列の勝負」なので、遅い子を急かすのではなく助ける空気が生まれる。
最後尾が先生に答えを言いに来る動きがあるので、教室が少し動いてよい時間帯(授業頭)に。